

人生の書『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第5回

四国ブロック

労働者総体の団結を目指し資本とたたかう

司会（東口）：今回は第6章の学習で
す。ここでは得てして労働組合が陥り
がちな、労働組合主義についての議論
となるうかと思えます。

第6章 革命家は反動的な労働
組合の中ではたらくべきか

（レポート要旨）

・ドイツ「左翼」共産主義者たちは、
自身で新しい組織を現状の労働組合
を無条件に否定し、指導者の独裁か大
衆の独裁かと滑稽な議論をしている。
・党と労働組合は相互に働きかけ合う

関係である。党は労働組合の指導部か
らなり、労働組合は大衆からなる。大
多数を占める大衆＝労働者階級により
社会が動く。三者は密接に結びついて
いるのでどれも当然に否定できない重
要なものである。

・社会が変わってもなお当面は資本主
義の遺産が残る。それを避けるのでは
なくその遺産を基に長い年月をかけて
社会を変革していく必要がある。
・労働組合にもある種の反動的な性格が
表れるが、それは避けられない。あく
までこれらの労働組合のなかで活動し、
それらと対峙しながら任務を遂行する

必要がある。

社会を動かすための独裁とは

司会（東口）：第6章のレポートは
徳島県協の竹内依子さんです。レポ
ーターの方から何点が疑問点をいただき
ました。まず1点目は、「指導者の独
裁か、それとも大衆の独裁か」という
ところで、「それとも・・・」と強調
されているのはなぜか？ というもの
です。これについては前回第5章で、
「党の独裁か、大衆の独裁か」で議論
があったと思います。35ページ辺り

◆ みんなの学習講座



疑問点を整理しながらレポートする竹内さん

になります。本文では「二つの共産党が対立している」として、「一つは、指導者の党として、上から革命的闘争を組織し、指導しようとする。もう一つは大衆の党として、下からの革命的闘争の高まりを期待する。」とあります。左翼の方は指導者の独裁を目指し、ボリシェビキ、こちら側は大衆の独裁をスローガンとしているとのこと。

この第6章では全般的にその二つの違いが述べられていて、左翼の方は、反動的な労働組合に参加すべきではないという立場をとっていますし、後ほど出てきますが、労働組合自体がそもそも大衆の組織であるということからも、そこを無視して闘争を組み立てるのはどうなんだということです。

須藤…大衆とともに世の中を変えるといっても数百、数千、数万人の労働者、農民、大衆を動かすのは、少数の間人だけでは到底無理な話です。しかし自然発生的な大衆運動を待つだけでは世のなかには動かないわけで、そこに大衆とのつながりがある党があり、そこに指導部による指導がされるという組織的な運動で初めて大衆が動くわけですから、指導者による独裁では大衆は動かせないという皮肉を込めた言い回しになっています。

高開…大衆と労働組合が密接に結びついていることが重要だということ、

労働組合も無視はできないということですね。

分業による人間性の阻害

司会（東口）…では次に移ります。48ページの最後の段落で、本文では「資本主義は社会主義への遺産として、かならず、一方では、古い、数世紀にわたってつくられた、職業上の、または手職のうへの分業を労働者のあいだにのこし、他方では労働組合をのこす。」とあり、残された「この組合は、長い年月のうちに、同業的なものから産業別へと発展し、組合を通じて分業を廃止し、あらゆることができる人々の教育、訓練、養成にうつってゆく。」と書かれています。そこでレポーターからは、「分業を廃止したうえであらゆることができる人々の教育とはどのようなものを指すのだろうか？ 社会主義社会の人間教育ということか？」と

いう疑問が出されています。ここを答
えられる方はいますか。

池内…マルクス主義に基づいた社会発
展の結果そうなるということですが、
疑問点としては、封建主義の時代から
徐々に分業が進んできて現在は資本主
義的分業ですけども、社会主義になっ
た場合に、いくらあらゆることができ
る人々が増えても、社会的分業は残る
と思うんです。本文ではこの時代の工
場労働者のことを念頭に書かれている
と思いますが、分業によって決められ
た作業だけを黙々とやり続けるという
脳の発達もできないような退屈な労働
からは解放されて、それぞれが自身で
考えてモノをつくるなどの人間的な発
展をしていくということだと思いまし
た。

た後の分業としては質が違うのかなと思
いますね。今の感覚で考えると「なん
でもできる人間」というのはいかにも
オールマイティな人間に成長するよう
なイメージですが、やはり人には個性
があつてできることもあればできない
こともあるだろうし、だからと言って
できない人は淘汰されていくというの
ではなくて、社会的に補い、支え合
いながら全ての人が人間らしい生活を送
れるようになっていくべきであるし、
その意味ではそれぞれ不完全な人間同
士が上手く分業しながら社会が動いて
いくという感じではないかと思えます。
結果的にそれは分業なんですけど、機械
的に分業を余儀なくされている資本主
義での分業とは違って、温かい分業で
あつて質が異なるものです。

須藤…ここという分業は狭い意味でな
くて、大きな意味を持ちます。今専門
家と呼ばれる人たちが大勢いますが、
本当に狭い分野で学者ぶつているとい

うのが実際に、他の分野のことはわか
りませんというのが大半です。本来人
間はさまざまな能力を持っているにも
関わらず、狭い範囲に押し込められて
います。社会的分業についても、チャ
ップリンの映画『モダン・タイムス』
でも比喻されていますが、一つのもの
をつくるのに、労働者はネジを締める
ことを永遠にするだけという、人間性
を阻害された分業労働が強いられてい
る。そうではなくて一人ひとりが持つ
ている能力をあらゆる分野に広く発揮
できるような社会的条件をつくってい
くことが必要で、それによって人間と
しての成長、発展を目指していくとい
うことです。

竹内…人間性を大事にするということ
ですね。

須藤…あと重要なのは、そこに至るま
では長い年月がかかるということだ
です。

岸本…本文でも「長い年月をへてはじ

◆ みんなの学習講座



映画『モダン・タイムス』（1936年）の一場面
チャップリンが機械文明に風刺を込めて制作した

めてそうなる」と書かれていますね。空想的な人的資材等によって社会主義をつくり出すのではなくて、資本主義が遺産として残したのから社会主義はつくり出すべきだと。それを一足飛びに別の方法でつくり出すとするドイツ左翼共産主義を戒めています。

労働組合と社会主義政党

兼廣…このテキストでレーニン氏は「党が労働組合を指導する」とありましたが、以前に山川均の『社会主義への道』を学習したことがあり、そこで山川均は両者が対等な立場であると、上から党が指導するというようなことは言っておりませんでした。実際はどのようなでしょう。

須藤…労働者階級がつくった組織は2つ、労働組合と社会主義政党です。労働組合はあくまで職場などを単位であるが故に、色々な思想を持つ人が幅広く集まって形成されている組織です。

一方で政党は一定の同じ思想を持った者の組織であることから両者は質的に違うものです。当然、両者は対等であり、相互に尊重し合いながら、階級的には党が労働組合つまり労働者階級を指導し、導くという関係にはあるという事です。

井角…仕事も労働組合も一生懸命やるなかで、労働組合としてのものの見方を持つて仕事もやり、社会を変えていくという意識でこれまで私もやってきました。が、まだまだ学習も不十分であり、今日もこの学習会に参加しています。当然、労働組合にも多々弱い部分もあります。当時も全ての人が優れているわけではないし、さまざまな人がいるなかで、党がしっかりと考えた方で労働組合を指導しながら、さまざまな人が集う不十分な組織を強くしていくというイメージで考えれば良いかと思えます。

司会（東口）…ありがとうございます。当然、労働組合にはたかいたかの指標や方針というものがあっても、そこに集う組合員には実際には色々な考え方があり、時には違う考え方に引張られて方針からぶれてしまうこともあるわけです。そこにはしっかりと党の指導と言いますか導きが必要



パリ・コンミュン

短期間ながらプロレタリアート独裁を成し遂げた

労組の反動的性格とは

司会（東口）…次に、テキストの50ページ辺りにある、労働組合の「ある種の反動的性格」という部分についてどういうことかというレポーターの疑問について考えます。本文では「プロレタリアートの革命的な党……が成長しはじめたとき、労働組合は、どうしても、ある種の反動的な性格、ある種の同業的な狭さ、ある種の政治的中立主義への傾向、ある種の沈滞、等々をあらわしはじめた」とあります。具体的にどなたか説明できる方はいますか。

竹内…文章の流れから見ると、自分たちの利益だけを考えて活動するというイメージですが、どうなのでしょう。

三木…本文では「労働組合のある種の『反動性』は、プロレタリアート独裁のもとでは避けられない」とあり、それを避けたり飛び越えようとすることは愚の骨頂だとありますが。

須藤…労働組合のたたかいかいには経済闘争が基本にあります。真面目に一生懸命やる労働組合でも限度があるということ。それを端的に表しているのが『賃銀、価格及び利潤』の最後のところです。有名な部分ですが「労働者階級は『公正な一日の労働にたいする公正な一日の賃銀！』という保守的な標語の代りに「賃銀制度の廃止！」という革命的なスローガンを彼らの旗に書きしるさねばならない」というものです。プロレタリアート独裁で、使用者側と労働者という階級をなくすことを目的としていることはまさに賃金制度をなくすということです。

池内…現在の連合労働運動内の、正規の組合員さえ助かれば良いといった下

になり、そこでも強制的ではなく、うまく考え方を修正していきながら、相互に強化をされていくという感じですね。労働組合を無視して、党の指導性だけで強制的にやるというのは大半の大衆の意見を単純に無視することと同様になり、うまくいくはずがないということだと思えます。

◆ みんなの学習講座

請けはじめなど、ああいったものは意図的な反動ですか。

須藤：連合は、資本の意図のもとに階級的な労働組合・労働運動を潰すことを目的に、総評を解体して発足したものですので、そうなりますね。連合そのものが意図的な反動的な動きのための組織です。

前段であった「反動的労働組合のなかで働くべきか」で言えば、私たちが郵政ユニオンを立ち上げた時も、なぜ組織のなかでたたかわずに別の組合をつくらないのか。左翼小児病でないかなど、様々な批判というかわれ方をしましたし、一方で連合ができた時も、その連合のなかでたたかいくついでいくべきだと言つてのめりこんで離れていった人もいました。本テキストの一節を言い訳のように利用して向こう側に行つてしまったのです。

大西：自分たちでその時々で都合よく解釈してたたかいを避けていったので

すね。

藤川裕：郵政ユニオンの話を聞いて、J P 労組に残った人たちと考え方の違いはあっても、当局の攻撃は変わらないので、話し合いを常に行いながら、最終的にはお互いに理解し合つて団結をしないと、結局当局の思うつぼであるし、職場も社会も変わらないのだからなと思います。

須藤：3月に郵政ユニオンがストライキをやった時に、こちらは当局に対しての要求を書いたチラシを配り、その横でJ P 労組は「妥結した」というチラシを配っていました。重要なのは職場で働く組合員はそれで納得しているのかということ。けんかをするのは容易いけれども、そこは共に何が重要なのかを見失わずに議論するのが必要であると思います。そこには根拠と思想性が必要となります。私たちの運動をJ P 労組も一定支援してくれていますし、組合員のなかにも支持してく

れている人もいます。当局は露骨に差別しますから表立っては難しいですし、時間はかかるけれど、一緒に何とかしようという思いはあると思います。

小松：やはり時代時代の情勢、その国々の状況によって、新たな組合を組織するなどの戦術は変わつてよいのではないかと思えます。

司会（東口）：いくら組織が分かれても、敵は同じで、同じ攻撃を受けているわけですから元の組織とは関係が切れることはないですよ。そして大多数の組合員は元の組織にいるわけです。無視することもできません。関わりは継続し、ともに最後には団結するという目線でたたかいを続けるしかないということ。兼廣：敵は誰かということですね。い

がみ合つていてはそれを見失います。

ありがとうございます。次回は、第7章を学習・議論していきます。